

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイ ほほえみ			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～	2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	14名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		～	2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 19日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	異文化交流が出来る	日本以外にも様々な国にルーツを持つ子供が利用している。一緒に過ごす事で他国の言語や文化を共に学び合える環境です。職員も様々な国の出身者が多く意思疎通が図れる。	夏休みには流しそうめんやかき氷をして交流をしました。今後は他国の食の文化にも触れていきます。保見団地という事業所の立地を生かし、外部の子ども達との交流を持てる機会を増やしたい。
2	障がい種別を問わない受け入れと適切な支援の提供	当デイは身体、知的、発達などの障害種別を問わず受け入れています。完全バリアフリーの環境が整っており、重心の児童も安心して休息できる空間になっています。	様々な障がいを持つ児童が共に過ごす事を通して、利用する児童の社会性やコミュニケーション能力の向上を図っていく。
3	個別・集団・小集団での活動	日々の活動プログラムは障がい種別に応じて子供たちが選択出来るようにしています。また、ニーズに合わせて個別や小集団での活動、集団などを通して、多様な体験が出来るように支援しています。	今年度は学校休業日には博物館や買い物体験に外出したり、月1回の地域ゴミ拾いなど活動プログラムも充実させました。様々な意見を取り入れながら活動プログラムが固定化しないように職員間で話し合う機会を多くしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の関わり	保護者が参加できるイベントが開催できていない。「ほほえみまつり」やバザーなどを計画していたが、諸事情により開催できず保護者が交流できる機会がなくなりました。	おまつり以外にも保護者交流会、保護者参観を開催し、保護者同士が交流できる機会と場所を提供していくよう努める。
2	他事業所との連携が少ない	他事業所の取り組みや支援について知る機会が少ないため、支援の幅が広がりにくい。	今後は情報を共有できる場に積極的に参加して、必要な支援や課題を共有していく。他事業所を見学することも考えていく。
3	家族支援プログラムや家族の参加する研修や情報提供の機会が少ない	事業所として関係機関との会議参加や保護者との共通理解はしているが、家族支援プログラムや家族の参加する研修の機会が提供できていない。	療育にかかわる情報提供や、ポスターの掲示をしていく。家族支援プログラムの提供のために職員が必要な研修を受けて今後取り入れていくようにする。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		児童デイ ほほえみ				公表日 2026年 3月 31日	
		利用児童数		15名		回収数 14	
		チェック項目				ご意見	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13			1	部屋が広くていいと思います。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	12			2	適切な人員配置で体制を整えています。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12			2	心地よく過ごせるスペースを提供するため、こまめな掃除や整理整頓に努めます。
適切な 支援の 提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11	3			研修等により専門性の向上に努めます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12	1		1	
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	13			1	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8	5		1	具体的な支援内容を、ご家族にも分かりやすく説明をする。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	11	1		2	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13			1	
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	5	5	1	3	地域の行事や事業所の行事を通じて地域の子ども達との交流をしていく。
保護者 への 説明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14				
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	13			1	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	6		2	ご家族に向けて毎月の定期的な便りだけでなく、参加型の研修を行う。
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	12	1		1	連絡帳に記載したり送迎時に保護者の方にお伝えしています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	5	1		保護者からの相談を受けるだけでなく、定期的な面談を行えるようにする。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	4	2	2	保護者会や参観を実施し、保護者同士が交流できる機会を提供していきます。イベントも開催していきたい。
19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13			1	相談や申し入れがある場合には迅速に対応していきます。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11	3			連絡帳を通して保護者からの連絡をもらわず聞き、写真付きで情報伝達をこまめに行っていく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14				今後も鍵付き棚などを活用し、個人情報の取扱いに十分気をつける。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	5		2	それぞれのマニュアルを保護者にも分かりやすく発信する。また避難訓練の様子など月の発行物で知らせる。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11	1		2	定期的な避難訓練を行います。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	3		2	今後も、人員配置やスペースなど安全に留意していきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	13	1			事故等が発生した場合には速やかな連絡と状況説明の対応をしています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	14				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10	3		1	デイの日を楽しみに通っています。通所を楽しみにしてもらえるように安心安全な場所を提供していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	14				これからも、利用者様や保護者さまにご満足いただけるよう努めます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイ ほほえみ		公表日		2026年 3月 31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	1	広い空間を活用し、場所ごとに取り組める内容を分けている。また障がい特性で配慮が必要な場合などに対応する別室を設けています。	学校休業日等の利用時には、人数や障害の特性等に配慮し、スペースの調整を行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		勤務体制を整えて適切な職員数を配置しています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		バリアフリー化されており、車椅子やバギーをご利用の方が移動しやすい作りになっています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		こまめに清掃し、清潔で過ごしやすい環境にしています。整理整頓も心がけ活動に合わせて安全に活動できる空間になっています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	1	必要に応じて別室で過ごせるように、環境設定を行っています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9		月1回のデイ会議で話し合い、参加できなかった職員には引継ぎノートを使って個別に対応しています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	2	年に1回保護者様でアンケートや意向調査を実施し、改善に努めています。	実施した結果や内容、改善点などを職員がいつでも見られる場所に掲示し業務改善につなげるよう努めます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		月1回のデイ会議を行っています。職員間で意見交換し支援につなげています。必要があればその都度話し合いの場を設けています。	意見が業務改善につながるよう、決定事項が確実に周知できるようにノートも活用していく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	6		第三者外部評価は行っていません。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	1	事業所内で各職種の研修、法人内での研修も行っています。	職員が研修を受講できるように調整をし、より良い支援になるよう努めます。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	2	支援プログラムを作成し公表しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		毎月お子様ごとに相談員さんに提出用のモニタリングを作成しています。それをもとにアセスメントを適切に行っています。	お子様、保護者様、児発管、担当職員で、定期的な面談を行いニーズの把握やアセスメントにより支援計画作成していきます。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	1	作成する際は担当者会議を開き、放課後等デイサービス計画の作成を行っています。	多くの職員の意見が取り入れられるように話し合う機会を設けるようにします。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	1	保護者様の同意を得られた計画を職員間で共有し、支援が提供できるように努めています。	デイ会議やミーティングなどで全職員に周知を徹底していきます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	2	日々の行動観察はしているが、アセスメントと連動していない。	定期的に見直しをしてアセスメントできるようにしていきます。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	1	放課後等デイサービスのガイドラインに沿って、必要な項目や支援内容を設定しています。	多くの職員の意見が反映するようにしていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		常勤職員が中心となり、他の職員の提案も取り入れながら、活動プログラムの立案を行っています。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		誕生日会や季節の行事を多く取り入れ、固定化しないように心がけています。	コロナ禍以降外出の機会が減ったため、学校休業日等を利用して社会との繋がりを持つようなプログラムも取り入れていきたい。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		個々のやりたい気持ちに寄り添い、個別活動や小集団での活動を支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1	開始前にミーティングを行い、チームで連携して支援を行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	支援の内容は毎回リトムへ記載し、気になることがあればその都度話し合います。	支援終了後に参加できない職員には、ノートや口頭での伝達を行っています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		担当者が記録し、支援の検証、改善を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	1	毎月モニタリングを行い、必要があれば計画の見直しをしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	1	地域交流は地域の行事がある時に行い、普段はその他3つの基本活動を組み合わせて活動している。	地域の行事などがあれば、積極的に参加していきます。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		自らの「やりたい気持ち」を大切にすることだけでなく、その中でルールを守る事を徹底し、社会性を身につけています。	無用に声掛けをして意思決定を催促しないようにしていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		児発管とよく関わっている職員が参画しています。	必要に応じて事業所から会議の開催もしていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	1	担当相談員、他の事業所等と連携を取りながら支援にあたっています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	1	送迎時や電話等で学校での様子や下校時刻の確認など連絡を取り合っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	1		対象となるお子様がいません。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		主に担当相談員さんを通して行っています。個々の問い合わせに応じ、情報提供しています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	1		児童発達支援センターの合同研修会に今後も積極的に参加していきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	1	地域の行事などや、事業所の季節行事などを利用して地域の子供達との交流を図っています。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	2		積極的には参加できていないため、今後は参加できるよう調整していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	1	リトムに記載したり、送迎時に保護者の方と直接お話しています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	3		家族支援プログラムの提供は出来ていません。職員が研修を受けるようにし、研修を受けた職員を中心に実施に向けて検討していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	1	契約時に重要事項説明書と契約書について説明をしています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		必要に応じて個別に相談に応じています。リトムや送迎時に保護者様との会話から悩みに傾聴するよう心がけています。	職員の経験や知識不足を研修や勉強会などで補い、相談に応じていけるようにしていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		放課後等デイサービス計画書の説明を行い、保護者の方にサインをいただいています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		保護者の方からの相談に個別で時間を作り対応しています。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	5		コロナ禍以降大規模なイベント等を行っていません。今後は保護者同士が交流できる機会と場所を提供していくよう努める。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		苦情の際に講じる措置の概要を出入口の掲示板に掲示している。苦情はミーティングで共有しています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		月に1度たよりを発行し、お子様の写真を貼ったり、活動内容などを分かりやすくお知らせしています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		個人情報は鍵の付いた棚で保管するなど十分に気を付けています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		個々の特性に合わせて支援しています。	
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9		夏祭りを開催し、地域の方々や子どもにかき氷を無料配布しています。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		それぞれのマニュアルを作り、職員に周知しています。	マニュアル等を保護者にも、毎月のたよりなどで分かりやすく発信していく。今後は発生を想定した訓練も実施していきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		消火器の使い方等、地域と合同の大規模な訓練は年1回。事業所での訓練は2か月に1度行っています。	訓練に参加できなかった職員にも徹底していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9		服薬の時間等をリトムを使って確認し、保護者への報告を行っています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		現在アレルギーの利用者様はいません。今後対象児が利用の場合は指示書に基づき対応していきます。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	1	安全に対する研修・訓練を定期的に行っています。	今後も安全管理が十分にされた中で支援が行えるように研修、訓練を行っていきます。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	1	取り組み内容を定期発行物で知らせている。	面談等でも周知し連絡方法などを確認していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		ヒヤリハット記録を皆が見やすい場所に置いて共有しています。	新規事案には必ず目を通すよう徹底し、ミーティングで再発防止を話し合っていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		デイ会議で、虐待に関する研修を定期的に行っています。	外部の研修会にも積極的に参加していく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9		身体拘束については、障がい特性によって異なるため個々に書類を作成し、説明と了承を得て行っている。	個々の身体状態によって見直しが必要な部分を見直し、固定化しないように話し合っていく。